

令和4年12月5日

三浦市議会議長 草間 道治 様

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

令和4年度 議会運営委員会行政視察報告書

1. 視察日程

令和4年11月8日(火)・9日(水)

2. 視察地

福岡県那珂川市

佐賀県鳥栖市

3. 視察参加者

議会運営委員会

委員長 神田 眞弓

委員 蓮本 一朗 長島満理子

小林 直樹 出口 眞琴

議長 草間 道治

随 行 長島ひろみ

上田 貴大

4. 視察事項

◇ 福岡県那珂川市

議会におけるタブレット端末の活用について

- ・ 議会活動全般におけるタブレット端末活用について
- ・ SideBooksの利用について

◇ 佐賀県鳥栖市

議会におけるタブレット端末の活用について

- ・ 議会活動全般におけるタブレット端末活用について
- ・ SideBooksの利用について

【11月8日(火)】

(那珂川市HPより)

■ 福岡県那珂川市の概要

- ・面積 74.95平方キロメートル
- ・人口 50,073人(令和4年9月)
- ・世帯数 21,478世帯(〃)
- ・産業別 第1次産業(1.8%) 第2次産業(22.6%)
第3次産業(75.6%)
- ・市制施行 平成30年10月1日

★那珂川市HP <https://www.city.nakagawa.lg.jp/>

■ 位置・地勢

那珂川市は、福岡県の西部にあって大都市福岡市の都心部からわずか13キロメートルのところに位置し、東部は春日市、大野城市、筑紫野市と、南部は佐賀県、北部・西部は福岡市に接し、南部は三方を背振連山に囲まれ、ここに源を発する那珂川が市の中央を南北に貫流し博多湾に注いでいます。

地形は、おおむねだ円形で、南高(845メートル)北低(15メートル)の渓谷型をなし、南北14.5キロメートル、東西6.2キロメートル、総面積は74.95平方キロメートルです。

明治22年(1889年)4月30日、町村制の施行によって南畑村、岩戸村、安德村の三村が誕生。昭和31年(1956年)4月1日に市町村合併促進法に基づいて、この三村が合併して筑紫郡那珂川町が誕生しました。

那珂川町発足当時の人口は8,948人でしたが、恵まれた自然環境や福岡市の都心部から至近の距離にあること等から人口は増加していき、町誕生から62年後の平成30年(2018年)10月1日に筑紫郡那珂川町は、那珂川市となりました。



日本遺産に認定された裂田溝(さくたのうみ)「古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～」における構成文化財

福岡県那珂川市

議会におけるタブレット端末の活用について

(議会活動全般におけるタブレット端末活用・SideBooksの利用について)

● 視察目的

三浦市議会では、令和元年9月にICTに関する検討委員会を設置し、ICT化による市民の多様な意見の把握、市民への情報提供や議会の効率化を目的に、タブレット端末の導入に向け積極的に検討を進めてきました。その結果、令和4年12月定例会からタブレット端末を導入することとなりました。

議会においてタブレット端末を活用している先進議会である那珂川市議会におけるタブレット端末導入に至るまでの経緯・経過、導入後の本会議等における端末の使用方法などを調査します。

● 視察先対応者

進行・説明：米沢一江議会事務局長

説明：那珂川市議会

高原隆則議長（挨拶）

江頭大輔副議長

田中夏代子議会運営委員会副委員長



● 視察訪問先

那珂川市役所

● 視察概要

■ 議会におけるタブレット端末の活用について

1. 使用に関する取り決めやルールについて

那珂川市議会では、「那珂川市議会・議会運営支援システム運用マニュアル」がありました。マニュアルでは、タブレット等貸与規程・貸与品事故報告書・タブレット管理簿・付属品管理簿等と議会タブレット等運用基準で詳細にルールを決めています。

ました。

2. 議会運営でのタブレットの活用事例

(1) SideBooksを活用した、本会議、委員会、全員協議会等の議案・資料等の閲覧

① 導入のメリット

- ・本会議の議案、会議資料、市の各種計画書等も掲載しているので、タブレット1台で膨大な情報を閲覧することができる。
※「予算書」「決算書」は製本された冊子を配付している。
- ・招集通知を掲載している。
- ・検索もできる。
- ・資料等のダウンロードができ、「委員長報告」「市制報告会」等の資料作成にも活用できる。
- ・「会議通知」機能により、説明者が見せたい資料を議員に通知することができる。
- ・紙媒体の印刷・配付の手間が軽減された。

3. 議会運営以外での活用事例

(1) LINEWORKSのチャット機能

① 導入のメリット

- ・導入前は、議会事務局のインターネット端末から各議員の携帯電話へメールを送信していた。「緊急を要する内容」「災害時の安否確認の依頼・回答」など、全議員がメールを確認していない場合もあったが、導入後は「既読者」「未読者」が一目瞭然であるため、連絡後の対応が非常にスムーズになった。
- ・災害時等、撮影した写真をメールに添付し送信すると、容量によっては送信されないケースもあったが、LINEWORKSであれば容易に送信が可能となった。

② 具体的な活用内容

- ・議長から全議員へ通知（全員協議会、防災会議等の招集、本会議の招集・議案を掲載した旨の通知、等）
- ・議長から全議員へ情報提供（コロナ



- ・ 感染情報、執行部からの連絡、等)
- ・ 災害時の連絡、安否確認等
- ・ 議会事務局から全議員へ事務連絡（全国市議会旬報発行の周知、庁舎定期清掃のお知らせ等）
- ・ 委員長から委員へ委員会に関する連絡（委員会グループを作成）
- ・ 「議員⇄議員」「議員⇄事務局職員」の連絡



(3) LINEWORKS のカレンダー機能

① 導入のメリット

- ・ 導入前は「月初めに該当月のスケジュールをメール」で、「市が主催する行事を記載した用紙を会派室前に掲示」することで周知を行っていた。導入後は、LINEWORKSに入力するだけで、全議員がカレンダーにより会議、行事等を確認することができる。

(4) オンライン会議の導入

- ・ 令和4年6月定例会（本会議2日目）において、「那珂川市議会委員会条例」及び「那珂川市議会会議規則」の改正を行った。（全国市議会議長会が作成した改正案にならい改正）
- ・ オンライン会議の開催要件は、「新型コロナウイルス感染症等の感染症の蔓延」及び「災害発生時」に限定している。
- ・ 令和4年6月の那珂川市民防災訓練時にZoomを使用し、市議会としての訓練を実施した。

(5) タブレットが有する基本的な機能

- ・ カメラ ・ インターネット検索

- ・ グーグルマップ ・ メール
- ・ メモ

(6) その他のアプリケーションソフトインストールの事例

- ・ カレンダーソフト（LINEWORKS以外）：個人スケジュールとの確認を容易にするため
- ・ ワープロ、表計算等のソフト：資料作成のため
- ・ ドライブ：作成した情報をタブレット、個人所有のパソコンとクラウド上で共有するため

4. 導入後のメリットや今後の課題について

(1) 導入後のメリット

- ・ 紙資料の収納スペースが不要となった
- ・ 【執行部】議案作成の手間が軽減された（印刷、製本、配付）
- ・ 【執行部】議案に誤りがあった場合、差し替えの手間が軽減された

(2) 今後の課題

- ・ 「SideBooks」のデータ容量に上限があるため、上限に差し掛かるまでに「容量を追加（予算増額）する」「掲載データの年限を調整する」等の検討が必要（令和2年5月から令和4年7月までのデータ使用量6,576MB/11,264MB）
- ・ Wi-Fi通信に若干の不具合が生じるときがある（LTE通信に切り替えることで解消される）
- ・ 災害発生（特に地震）など、緊急時にオンライン会議を開催できるようになったため、いつでもタブレットが使用できるよう、その保管方法や「常時携帯するか」等の懸念がある
- ・ タブレットの調達が困難になっている（私立学校等への普及等）

その他、タブレット端末の導入に至った経緯及び費用について説明を受けました。

■ 主な質疑応答

Q：Wi-Fiは執行部と共用しているが、予算上はどのようになっているのか。

A：執行部で全て負担している。64人×3ギガ＝192ギガを共有している。職員はWi-Fiを使っているので、1人3ギガもいらないうと思う。

Q：タブレットのみでの運用をするまでにどのくらいかかったか。

A：導入までに2～3回研修があった。本番前の5月議会で試して、6月議会からはいきなり紙資料なしにした。予算・決算は紙資料を併用している。

Q：他の議会ではタブレットのみとするのに1年かかったという話も聞くが、議員の努力ということか。

A：古参の議員がうんと言ってくれないところが多いようだが、うちは「やろう」と言ってくれた。最初は職員が駆けつけて教えたりしていたが、思い切ってやった。

Q：タブレットを持ち歩くことに課題があるようだが、スマホでも共有ができていますか？

A：全議員がスマホにLINEWORKSを入れているので、基本的には連絡はスマホで受けている。Zoomは携帯ではできないので、災害の発生が予測されるときにはタブレットを携帯するよう呼び掛けている。

Q：数字には出ない削減効果というものはあるか。

A：自分（高原議長）は元職員だが、議案をつくるのが大変だった。議案をつくるためのスペースも要らなくなった。カラー印刷もなくなり、遠慮なくカラーの資料が作れるようになった。

Q：オンライン会議の今後の可能性は。

A：本会議は法改正が必要だが、それ以外は様々な会議に使える。ただ、会議は議員だけでは成り立たないので、災害時など、議員は会議ができて職員が対応できない。全員協議会、各派代表者会は問題なくできている。普段から行っていないと、いざというときにできない。

Q：オンライン会議を行うための条例改正はどのような内容か。

A：議長会から提示されたもの、そのままである。平時の委員会を開くときに家族がコロナに感染した場合などにZoomの利用が可能な市もあるが、那珂川市では検討はしたが時期尚早ではないかということで取り入れていない。会議は議員だけではできないので検討課



題である。

Q：デジタル化による住民とのコミュニケーションはどうか。

A：タブレット導入の第一の目的は、市民への情報提供を容易に行うことができるようにするということである。計画書などを常に持っているので、問い合わせがあってもすぐに回答ができる。市政報告会などでも活用している。あとは議員の力量次第である。



【11月9日(水)】

(鳥栖市HPより)

■ 佐賀県鳥栖市の概要

- ・面積 71.72平方キロメートル
- ・人口 74,475人(令和4年9月)
- ・世帯数 32,888世帯(〃)
- ・産業別 第1次産業(2.0%) 第2次産業(42.7%)
第3次産業(55.3%)
- ・市制施行 昭和25年10月15日
合併(平成17年2月7日 旧洞戸村、旧板取村、
旧武芸川町、旧武儀町、旧上之保村を編入)

★鳥栖市HP <https://www.city.tosu.lg.jp/>

■ 位置・地勢

鳥栖市は佐賀県の東端に位置し、北は脊振山地を隔てて福岡平野、南は筑後川をはさんで久留米市に隣接。東西8.2キロメートル、南北9.0キロメートル、面積71.72平方キロメートルで、人口約73,000人。

昭和29年4月に鳥栖町、田代町、基里村、麓村、旭村の2町3村が合併して発足しました。

市役所は、東経130度30分21秒、北緯33度22分39秒に位置し、標高23.5メートルです。

鳥栖という地名は、その字のとおり「鳥の栖(すみか)」という意味です。奈良時代に書かれた「肥前風土記」によると、ここに住む人々が鳥小屋を作り、雑鳥(くさぐさのとり)をつかまえてかいならし、朝廷に献上したことから「鳥屋の郷(とりやのさと)」、「鳥樸(巢)郷(とすごう)」と呼ばれ、のちに鳥栖という地名になったと伝えられています。

自然に恵まれた鳥栖市では、同市と福岡県那珂川市にまたがる九千部(くせんぶ)山の山麓や河内ダム周辺はもちろん、市内全域で多くの野鳥を見ることができます。

市の鳥である「メジロ」や佐賀県の鳥「カササギ」はもちろん「ヤマガラ」や「モズ」、「カワセミ」や「ヒバリ」、「ヒヨドリ」など、これまで147種の鳥が確認されています。



市のイメージキャラクター
「とっとちゃん」

佐賀県鳥栖市

議会におけるタブレット端末の活用について

(議会活動全般におけるタブレット端末活用・SideBooksの利用について)

● 視察目的

議会活動全般におけるタブレット端末の活用・SideBooksをすでに利用についてしている先進議会である鳥栖市議会におけるタブレット端末導入に至るまでの経緯・経過、導入後の本会議等における端末の使用方法などを調査します。

● 視察先対応者

進行・説明：西木純子次長
説 明：鳥栖市議会
松隈清之議長（挨拶）
議会事務局
大塚隆正議事調査係長



● 視察訪問先

鳥栖市役所

● 視察概要

■ 鳥栖市議会におけるタブレット端末の活用について

1. 導入までの経緯について

平成28年3月に議会改革検討会で各会派からタブレット端末の導入・ICT化の導入について確認後、平成30年6月から導入した。

2. システム選定の理由について

・ペーパーレスシステムSideBooksについては、フォルダ階層の

制限がないこと、語句検索機の充実、PDF文書への書き込みができること等から導入した。



- ・ iPad第6世代の導入については、セキュリティ・先行導入自治体の多くが導入していることや持ち運びが容易なサイズであることから導入した。

3. 導入して議会がどう変わったか

- ・ 予算書・決算書以外はすべてペーパーレス化している
- ・ 紙資料での報告・案内の廃止
- ・ 議員個人の活動において、市民相談等で必要な資料を、タブレット対応できること等

4. 使用ルールについて

鳥栖市議会タブレット端末運用規程・端末使用基準を活用している

5. 導入効果について

(1)費用削減効果

本会議議案、委員会資料等、本会議会議録のペーパーレス化

(2)紙使用量削減枚数

①本会議議案、委員会資料等 約12万枚

②本会議会議録冊子 約1.6万枚

(3)上記以外の導入効果

- ①経費削減、事務改善
- ②情報伝達の迅速化
- ③議会運営の効率化
- ④政務活動の充実
- ⑤危機管理対応の向上

■主な質疑応答

Q：平成30年度から運用してきているが、運用方法を変更する必要性など、課題はあるか。

A：意外とない。各議員が議員らしく使えるようにアプリのインストールなども自由にしてきた。ただ、当初は検索フィルターをきつめに設定していたが、鳥栖市には公営競馬があったのでフィルターに引っかかってしまった。

AppleIDは事務局が管理しているので課金はできない。また、有料版のアプリを入れたいという要望も特になかった。

Q：アプリのインストールに申請を出す必要はあるのか。

A：ない。一旦は事務局に申請をすることにしたが、やめた。縛りをかけるとタブレットを使わなくなってしまうため制限をかけなくなった。議員のモラルに任せている。



Q：試行期間を設けていないが、議員間で差が出なかったのか。

A：紙資料を欲しいと言う議員がいたため、希望により紙資料を提供しているが、だんだん減ってきた。

また、各会派にICT推進員を置き、推進員の議員が会派の議員に教えている。

Q：オンラインの会議などは行っているのか。

A：条例、規則を整備してまでは行っていない。

2年前から報告会をオンラインで行っている。当初はオンラインと会場を併用し、次の年はオンラインのみとした。今年の開催は、昼間はLIVE、夜間はオンラインで行うことを考えている。まだ試行錯誤中である。

Q : 報告会参加者の年齢層はどうか。

A : 若手や他の議員が多かったが、最近は偏っていない。今年は顔出しなしでの参加とする。

Q : 予算・決算資料は今後も紙資料とするのか。

A : 予算書は年間通して使うことや細かいメモがしにくいということから紙資料のみとしている。

Q : 議員個人の活動が便利になったということはあるか。

A : 地図、図面、路線などが見せやすい。また、過去の資料が検索しやすくなった。

そのほか、委員会の資料は委員会ごとにもらっていたが、全議員が見ることができるようになった。

Q : 通信容量を最大7ギガとしているが、超えることはあるか。

A : 事務局で容量を確認できるが、まれに超えることがある。Wi-Fiを使っていれば1ギガを超えることはない。

Q : 通信料の負担はどのようなになっているのか。

A : 定額になっている。1人約1,000円である。

Q : 会議中のトラブルなどはあるか。

A : 本会議中は使うものが限られるので、あまり使っている人がいない。

Q : 一般質問には使用しているか。

A : 使用している議員もいる。

Q : タブレットにwordは入れているか。

A : 閲覧用として入れている。議員の中にはMicrosoftアカウントを作って編集ができるようにしている人もいる。

Q : 私物のパソコンやタブレットの持込みは認めているのか。

A : 制限はかけていない。必要のないものは持ち込めないのですが、必要があるのであれば認めている。



Q : 一般質問の際に資料を提示する場合、傍聴者や報道関係者にはどのように見せているのか。

A : 質問者が自ら印刷して準備をする。

Q : 職員側のメリットは。

A : ペーパーレスができること、カラーの資料をためらいなく使えること。事務局は資料を議員の自宅に届けていたが、データを送信にできた。

執行部のデメリットはないのではないかと。手配りが当たり前ではなくなった。「メールでいいんじゃないか」の意識を持つようになった。

Q : 三浦市は議案の付託表は議案質疑が終了してから、その場で配付しているが、どのように対応しているか。

A : 「予定」ということで初めから配付している。



行政視察の成果について

福岡県那珂川市、佐賀県鳥栖市行政視察を終えて

議会運営委員長 神田 眞弓

11月8日火曜日 福岡県那珂川市

昭和31年に那珂川町が誕生してから62年後の平成30年10月1日那珂川市となり人口は5万78人です。南方は脊振連山に囲まれてのどかな半面、駅周辺は福岡市の都市から13キロのところにある賑わいもありました。



議会におけるタブレット端末の活用
SidoBooksの利用について
両市共通のテーマでした。

那珂川市は合併し4年という早さで令和2年6月よりタブレットを導入し、議案資料等のペーパーレス化を実施しております。

- 1 使用に関する取り決めのルール
- 2 議会運営でのタブレットの活用事例
- 3 議会運営以外での活用事例
 - (1) LINEWORKSのチャット機能
 - ① 導入のメリット
 - ② 具体的な活用内容
 - (3) LINEWORKSのカレンダー機能
 - ① 導入のメリット
 - (4) オンライン会議の導入
 - (5) タブレットが有する基本的な機能
 - (6) その他のアプリケーションソフトインストールの事例
- 4 導入後のメリットや今後の課題について
 - (1) 導入後のメリット
 - ・ 紙使用の収納スペースが不要となった
 - ・ 執行部は議案作成の手間が軽減された（印刷、製本、配布）
 - ・ 議案に誤りがあった場合、差し替えの手間が軽減された
 - (2) 今後の課題について

- ・ SideBooksのデータ容量に上限がある
- ・ Wi-Fi通信に若干の不具合が生じるときがある
- ・ 災害発生など緊急時にオンライン会議を開催できるようになったため、いつでもタブレットを使用できるようその保管方法や常時携帯するか等の懸念がある。

以上のことを細かく説明していただき、当市も導入後のメリット、課題についてはこれからの検討事項になるため非常に勉強になった。

出席していただきました高原議長、江頭副議長、田中議会運営委員会副委員長、ありがとうございました。

11月9日水曜日 佐賀県鳥栖市

福岡県との県境にあり、九州陸路の要衝として発展しているところです。

九州一の地理的優位性や最先端技術の集積が開設されプロスポーツチームも本拠地としている活気ある町でした。

本市と名称は違っても導入までの経緯は変わらず、議会改革検討会の設置や議員対象アンケート、導入を前提とした導入時期を検討し、各党派ICT推進委員の設置をして準備を進めていった。

導入後、議会が変わったことは、予算書、決算書以外のすべての紙資料は電子資料で配布、議員個人の活動においてもタブレットを活用する体制づくりをしていった。

以上のテーマを丁寧に質疑応答をしていただきました。

松隈議長はじめ議会事務局職員の方々、ありがとうございました。

当市としては、

- 1 議会のデジタル化の目的は、あらゆる災害時にも議会機能を十分に発揮し、住民とのコミュニケーションを確保すること
- 2 誰も取り残されないデジタル社会に向けて議会が果たすべき市議会のリーダーシップ
- 3 市議会が域内のコミュニティを取りまとめる役割を果たすために必要なデジタル改革

以上のようなデジタル化についての現状課題を考えていきたいと思いません。

三浦市議会 議会運営委員会 令和4年度行政視察報告（11月8日福岡県那珂川市、11月9日佐賀県鳥栖市）

蓮本 一朗

1 視察項目（両市共通）

- （1）議会におけるタブレット端末の活用
- （2）アプリの活用

2 那珂川市議会におけるタブレット端末の活用に関する所感

福岡県那珂川市は、恵まれた自然環境と福岡市の都心部から13kmに位置するという条件に恵まれたこともあり、平成27年に人口が5万人を超え、平成30年に単独市制施行されました。その後も人口は維持され令和2年10月には50,112人、令和4年には50,078人となっています。総面積は74.95km²であり、三浦市（32.05km²）の2倍超の広さです。福岡市のベッドタウンとして発展してきました。

那珂川市議会がタブレット端末を導入するきっかけとなったのは、平成27年度の単独市制となったことを機に、平成30年からタブレット端末の導入が検討され、令和2年にタブレット端末の納品・運用が開始されました。

私が注目したのは、那珂川市議会においてはタブレット端末を導入したあと、どのような運用上の問題が発生し、どのように対応してきたのかという点でしたが、那珂川市議会では導入効果と課題について以下のように認識していました。

- ・タブレット端末を議会に導入したことによる効果は大きく、またデメリットとなるものは大きな問題ではない。
- ・今後の課題として、データ容量の制限／Wi-Fi通信不具合発生時の措置／常時携行するか、などの問題が予期されている。

これらの問題を克服した際の判断や措置は大変参考になるものであり、導入されたばかりですが、運用上の問題を予期しつつ、地域住民への説明や議会活動への活用を考えていく必要があると感じました。

3 鳥栖市議会におけるタブレット端末の活用に関する所感

佐賀県鳥栖市は、昭和29年（1954年）に鳥栖市施行により5町村が合



併し鳥栖市となりました。当初の人口は40,176人でしたが令和4年9月現在74,475人、総面積は71.72km²です。鳥栖市は佐賀県の東端にあって福岡県と接しており、古くから九州の陸路交通の要衝として発展してきました。内陸工業都市として大企業が多く進出しており、福岡市、久留米市へ通勤・通学する人も多いという状況です。いくつかのプロスポーツが鳥栖市を拠点にしています。

鳥栖市がタブレット端末を導入するきっかけとなったのは、議会改革検討会の活動テーマとしてその導入が検討されたことにあります。平成30年5月にタブレット端末の導入が決定され、運用規定が策定されました。視察では多くの導入効果が紹介されましたが、以下の点が運用上の特徴として注目されました。

- ・市民相談等で必要な資料を随時使用できるレベルまで個々の議員が取り扱いに習熟した。
- ・従来、議員活動の範囲で行われてきたメールの授受が業務として行われるようになった。

議会事務局－議員、議員－議員間の連絡、市民への説明などの基本的な使い方のほかに、リモート会議などにも活用できることを踏まえて、新たな活用方法を模索するつもりでタブレット端末を使っていこうと考えました。

議会運営委員会行政視察報告

長島 満理子

令和4年11月8日9日
福岡県那珂川市・佐賀県鳥栖市

1. 福岡県那珂川市

「議会におけるタブレット端末の活用について」

○議会運営でのタブレットの活用事例について

SideBooksを活用し、本会議、委員会、全員協議会などの議案や資料を閲覧。



メリットは、タブレットから本会議の議案、会議資料、市の各種計画書などの情報が閲覧でき、議員活動においても市民に政策や事業をわかりやすく説明でき、コミュニケーションが図れる。

ペーパーレス化が図れる。

○ 議会運営以外での活用事例

災害時等の連絡、安否確認の対応

オンライン会議について検討

運用基準では、許可なくアプリケーションソフトをインストールしてはいけない、会議以外でのラインワークスを使用した情報伝達、その他厳守事項が定められている。

1か月の通信量に制限をかける。Wi-Fi環境があるところで使用する。

タブレットの活用は、議会や会議資料の閲覧、事務局との連絡以外にも、オンライン会議など幅広く活用できる可能性が多くあるので、今後三浦市議会もあらゆる利用方法を検討していかなければいけない。

2. 佐賀県鳥栖市

「議会におけるタブレット端末の活用について」

○ 議会運営でのタブレットの活用事例について

SideBooksを活用

予算書・決算書以外は電子資料配布 紙資料での報告案内の廃止によって、資料が見やすくなる。

議員活動において、市民相談で必要な資料をタブレット活用することで、過去の資料なども示せるようになる。

試用期間の扱いについて 試用期間は設けず、各々でタブレットに慣れるようにしていく。

導入効果 ペーパーレス化、資料の持ち運び削減など議会運営の効率化、防災訓練やオンライン化による危機管理対応の向上が図られる。

その他 運用規定は、アップルIDは事務局管理、制限など検討の余地がある。

その他 議会報告会などオンラインで実施、ハイブリッド形式など、その年ごとに手法が違いますが、今後も様々な可能性を持って開催していける。

タブレットを活用していく事で、資料の閲覧だけではなく、様々な活用法を検証していかなければならないと考えます。

議会運営委員会 行政視察 報告書

小林 直樹

1. 福岡県那珂川市 〈視察事項〉議会における タブレット端末の活用について

(1) タブレット端末導入の経緯

- ①平成30年5月に議会運営委員会の視察テーマとして「タブレット」を提案
- ②その後、先進都市を視察
- ③令和2年5月にタブレットを納入し、臨時会で試行（紙媒体の用意あり）
- ④6月議会から本格実施（紙媒体の用意なし）

(2) タブレットの運用等

①導入の目的

市民への情報発信の充実と効率的で迅速な議会運営を実現するため、ペーパーレス化、情報の共有化を図るために導入

②導入のメリット

本会議の議案、会議資料、市の各種計画書等をタブレット1台で膨大な情報を閲覧できる利点

③アプリケーションソフトウェアのインストール

アプリケーションソフトウェアをインストールする場合は議長に申請

④防災訓練の実施

令和4年6月の防災訓練時にZOOMを使用し、議会として訓練を実施

(3) 今後、参考にすべき事項

タブレットを導入することにより、市民への情報発信、迅速な議会運営、情報の共有化など議員活動を今以上に充実させることが重要だと思います。



2. 佐賀県鳥栖市 〈視察事項〉議会におけるタブレット端末の活用について

(1) タブレット端末導入の経緯

- ①平成29年3月に議会改革検討会でタブレット導入を検討
- ②平成29年9月に導入するシステムとタブレット機種を選定

③平成30年5月にタブレットを各議員に配布

(2) タブレットの運用等

①試用期間

紙資料と電子資料を併用した試用期間は設けず、予算書・決算書以外の全ての紙資料は平成30年6月から廃止

②アプリケーションソフトウェアのインストール

アプリケーションソフトウェアのインストールは自由

(3) 今後、参考にすべき事項

鳥栖市は、アプリのインストールが自由であるなど、那珂川市に比べて使用ルールが柔軟です。各議員の判断と責任において運用することが求められるのだと思います。

議会運営委員会行政視察 報告

出口 眞琴

11月8日(火)9日(木)の2日間で福岡県那珂川市・佐賀県鳥栖市へ「議会におけるタブレット端末の活用について」行政視察研修を行いました。

両自治体共に先に議会においてタブレット端末の活用を実施しており、その間に導入メリットと今後の課題検討が出てきています。

視察前日の7日(月)に三浦市議会議員全員でタブレット端末の基本操作を講習して頂き、タブレット端末を持参し視察研修を行いました。

1日目の那珂川市では、タブレット端末の導入経緯について、平成30年5月にタブレット端末の導入が提案され、その間、勉強会、議会運営委員会での先進自治体への視察等を行い、令和元年議会運営委員会にて導入を決定し、令和2年5月臨時議会で紙媒体と兼用で試行し、6月定例会からタブレット端末のみで本格実施に入った。



2日目の鳥栖市では、タブレット端末の導入経緯について、平成28年3月議会改革検討会で大半が積極推進する事了承され、その後タブレット活用によるペーパーレス会議を検討することが決定された。

その後、議会改革検討会で議論を重ね、平成29年9月に費用負担・導入システム・タブレット機種等について意見が一致した。

平成30年5月タブレットを各議員に配布し、タブレット・ペーパーレスシステム運用を開始し、6月から予算書・決算書以外の紙資料を廃止した。

那珂川市・鳥栖市共に節減効果としてはタブレット導入により議会資料等のペーパーレス化・経費節減・事務改善・情報伝達迅速化・危機管理対応の向上等が挙げられる。

今後の課題については、「SideBooks」の容量に上限があるため容量の追加（予算増）・掲載でデータの年限調整等の検討が必要とされている。

タブレット端末の運用について一部の議会では使用方法に課題が指摘されていますが、那珂川市・鳥栖市共に問題なく活用されています。

最後に、議会のタブレット端末の活用については経費節減・事務改善・情報伝達迅速化等は議会改革であります。各議員がタブレット導入に積極的に取り組み、活用方法を覚える事で早期に議会での有効活用がされると思いますので、各議員、得手不得手様々ありますが、まずはタブレットに触って覚える事から始めたいと思います。

令和4年度 議会運営委員会行政視察報告

議長 草間 道治

これまで新型コロナウイルス感染症の影響で2年間行政視察が中止され、3年ぶりに行政視察を再開することが出来ました。

今回の視察は、福岡県那珂川市と佐賀県鳥栖市に行政視察に行きました。

視察では、「議会におけるタブレット端末の活用について」をテーマに研修を行いました。

私は、議長として議会におけるICTの積極的活用を推進することを目的に、令和元年9月に「ICTに関する検討委員会」を設置し、これまで検討を重ねた結果、本年12月議会からタブレット端末を導入することから、本市議会と同じSideBooksとiPadをすでに導入活用している先進的議会として両市議会に研修を受け入れていただきました。

初日に視察した、福岡県那珂川市議会では、議会運営でのタブレット端末の活用事例の説明をしていただき、ペーパーレス化については、予算・決算書以外はすべてSideBooksを活用したタブレット端末で問題なく出来ている、タブレット一台で膨大な情報を閲覧することができることや、検索システムが使いやすい等SideBooksは使いやすいとのことでした。

また、本市でも導入しているLINEWORKSを那珂川市議会でも活用していて、導入後は「既読者」「未読者」が一目瞭然であるため対応がスムーズになったとのことでした。

新たな取組として、那珂川市議会では、オンライン会議の導入について、令和4年6月定例会で委員会条例及び会議規則の改正を行い、6月に開催された那珂川市民防災訓練時にZOOMを使用し市議会として訓練を行うなどについても、大変参考になりました。

翌日に視察した佐賀県鳥栖市議会では、導入までの経緯については、平成28年にタブレット端末の活用・ペーパーレス会議の検討を行い、平成30年6月議会から試用期間は設けず、予算・決算書以外の全ての資料については廃止、タブレット端末で行っていました。

導入効果については、議会活動のペーパーレス化による費用削減効果



として、本会議・委員会資料等で約12万枚・本会議会議録冊子約1.6万枚の削減効果等、その他、タブレット端末に全ての資料が収まっているので、情報伝達の迅速化・議会運営の効率化や特に政務活動に充実についても、タブレット一つで市民の方への説明にも迅速に対応でき、沢山の資料を持ち歩かなくても済むことなど、多くの導入効果について説明されました。

また、鳥栖市議会でも、防災訓練をオンラインで行っていたことや、議会報告会についてもコロナ過の影響により対面での開催が難しいことから、3年前からオンラインやZOOMで開催していることは、今後の課題として勉強になりました。

今回の視察で感じたことは、本市で導入した、SideBooks・iPad・LINEWORKSの利便性が両市議会でも評価されていたことは、大変参考になりました。

視察に対応して頂いた那珂川市議会高原議長はじめ事務局の皆様、鳥栖市議会松隈議長はじめ事務局の皆様には、大変お世話になりました。
